

白井なおこ

しらい・なおこ
REPORT Vol.12



日野・生活者ネットワークニュース 白井なおこ REPORT 発行日：2021年10月20日
発行：日野・生活者ネットワーク 発行責任者：出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平 2-3-12 中央日石ビル4階
TEL: 042-514-8695 FAX: 042-514-8697 E-mail hino-net@cap.ocn.ne.jp

議
会
一
般
質
問

いま世界はコロナ危機と気候危機、二つの危機に直面しています。ともに解決に向けて、新しいシステムへの変換が求められています。脱プラスチック、ごみの資源化を中心に、日野市の取り組みを問いました。

脱プラスチックを めざして

日野市は昨年「プラスチック・スマート宣言」をし、プラスチックごみの削減に取り組んでいます。市の施設では傘用の使い捨てビニール袋を撤去し、水滴除去器具を設置したり、レジ袋に使えるごみ袋の試作を予定しています。

また、まちに落ちているごみも、ゆくゆくは海洋汚染につながります。日頃からごみ拾いに取り組みられている方々の声を聞

きとり、さらにその輪が広がる工夫を求めました。

プラスチック類ごみの一括回収により資源化率は5%ほど上昇したものの、今年度目標の4%には届きません。

宣言と行動が結びつき、それが資源化率の向上という結果に表れるよう、一貫性をもって発信・啓発することを求めました。

生ごみも 資源化しよう！

水分を含んだ生ごみは、焼却



トートバック型コンポストも市の助成対象です

ダンボールコンポストの普及に力をいれており、少しずつ利用者が増えています。

一部の地域では、生ごみを分別回収後、畑に直接投入し堆肥化する取り組みもあります。このような取り組みを市内全域に広げ、廃棄物をださない循環型システムへの移行をすすめる必要があります。

市長からは、「地球規模で考え、足元から取り組んでいく」思いは確認しました。しかし、市民への発信力不足であることは指摘しました。

2050年ゼロカーボンを目指すには、ここ10年が勝負です。今回の質問づくりには多くの市民の方々の声を伺い、反映しました。これからも常にアンテナを高くし、皆さんとともに、脱炭素のまちを目指します。

の際に多くのエネルギーを要します。日野市では自宅で気軽に堆肥化できる

9月議会 トピックス

●まちづくり条例の改正

黒川湧水の白濁を機に、開発事業における手続き等を見直します。今後は、公共工事における住民説明会のあり方や、携帯電話の基地局設置にかかるルールづくりについても、検討を求めました。

●南平体育館条例の制定

建て替わる南平体育館について利用料金等を定めています。現在、公共施設は新旧の算定基準が混在しているので、市民に丁寧な説明を求めました。

●2020年度決算より

一般会計の歳入は91.5億円、歳出は88.5億円と国都支出金の大幅増により過去最大に。コロナ対策を中心に、多岐にわたる事業を検証しました。今回は特別会計の担当で、

市立病院の医療従事者の手当や職場環境について質問しました。コロナ対応で都からの補助金等がなければ非常に厳しい経営状況です。見えにくい病院の状況を市民にもっと伝えていくことを、市長に求めました。(以上すべて、賛成・認定)

●請願より

補聴器購入への補助制度を求める請願は全会一致で採択。沖縄戦戦没者の遺骨を含む土砂を新基地建設の埋立に使用する計画の断念を国に求める請願は、採択の意見を述べましたが、本会議では不採択でした。

個人的な課題を政治へつなぐ

この4年間を振り返ると、はじめの1年は会派に属さず、2年目に会派を結成、3年目からはコロナ禍の中の活動でした。

お受けした数々のご相談や、紹介議員となって取り組んだ請願など、共に悩み、考え、話し合った沢山の方々のお顔が目に浮かびます。もちろん厳しいご意見をいただいたり、ご納得いただけないこともありましたが、全ての出会いとご意見の一つ一つに、育てていただいたと感じています。

時々「今は元気にやっています。」といった近況をお知らせいただくと、とても元気になります。笑顔は連鎖します。だからもっともっとまちに笑顔を増やしたい。いつも心掛けていることは、その人が本来持っている力を引き出したいということ。そして個人的な課題を政治につなぐこと。その志を持って、これからも頑張ります。

白井なおこ

〈要望したことの一例〉

- 市役所でのペットボトル販売取止めと給水機を設置
- 学校でプラスチック素材の教材を使わないこと など

日野市ゴミ分別アプリのご利用を！

ダンボールコンポストをはじめよう

